

最先端都市を地方に

片山氏「実現へ秋田も関心を」



インタビューに答える片山地方創生担当相＝秋田魁新報社

片山さつき地方創生担当相の最先端技術をフル活用するは27日、視察のため訪れた秋田市で秋田魁新報社のインタビューに応じ、自動運転など

かした街づくりが進められていることから、日本でも国家戦略特区制度を活用し、実証実験を実施する。実験の場は地方になる見通しだとし「秋田県内の自治体にも関心を持ってほしい」と話した。

■インタビュー詳細3面
内閣府によると、スーパーシティは人工知能(AI)などを活用し、自動運転、買い物時に現金を使わない完全キャッシュレス決済、遠隔診療・教育などが日常的にできる

最先端都市。構想実現に向け、実証実験を行う場所を選定する。あす29日から具体的な検討を始める予定という。

片山氏は「人口減でサービスを担う人材が減ったとしても自動化の技術を生かし、地域がうまく回っていくという先行例を見せていきたい。これまでにない思い切った規制緩和で実現させたい」と強調。実験場所に関しては「東京の中心では難しい。地方に最先端の街ができることになる」と述べた。

片山氏はインタビューに先立ち、国の地方創生特区に指定されている仙北市を訪れ、特区による規制緩和を生かして設立された農業生産法人「メデイカルファーム仙北」の加工場などを視察。門脇光浩市長との懇談では、内閣府と同市で国家戦略特区の推進事務局を共同設置することで合意した。事務局の共同設置は全国3例目で、特区内の各種施策立案などで国と自治体が連携する態勢を強めるという。

秋田市ではエリアなかいちにある秋田犬を眺められる施設「秋田犬ステーション」を訪問した。

(相沢一浩)